

令和3年度秋田県放課後児童支援員等資質向上研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります。)

県北会場

科目 ②遊びの力

- ◆ ここ何年か、クラブの活動の中で子どもたちの遊びに大人は入らず、ただ見守ってあげるをモットーにしてきた自分をこの度見直すきっかけを作ってくれた研修でした。遊びにおける大人の役割として、子どもと本気で遊んでくれる大人になることや一緒に感動を分かち合ってくれる大人が必要であるということ。これからは昔の遊びを取り入れたり、新しいゲームを一緒にしたり、もっと子どもの世界を広げていきたいと思います。
- ◆ 児童クラブで子どもと遊ぶとき、一緒になって遊ぶのだが、子どもが主体であるべきと思い、その時々で関わり方を悩んでいた。消えてしまった遊びの文化を取り戻すためには大人が必要とのこと。子ども主体の遊びでは世界が止まってしまう、その先を見せるのは大人であると聞き、大人である支援員が遊びのきっかけ作りをし、率先して楽しむことが大事だということを学んだ。
- ◆ 放課後支援員として子どもたちと関わっていて、子どもたちの忙しさを目の当たりにし、危機感を持っています。宿題、習い事、スポ少…と放課後も限られた時間の中で遊んでいます。その時間を簡単に増やすことはできませんが、その分、充実感を得られるように、そばで見守る大人でありたいと思います。子どもたちから生まれる、やりたい気持ち・共通の目的を大事にできるクラブにしていきたいと思います。
- ◆ 今の子どもは遊び時間がなく、仲間や居場所もない。遊びの時間を取り戻すために遊びを守る行動が必要。これからの子どもに何が必要か。情報化社会の今、いろんな情報が入ってくる。目の前の子どもが何を考えているのか、ありのまま見つめることが出発点。遊びに夢中になって磨かれていく感覚、その世界の中で思いがけないことに仲間とともに出会う体験、ひらめきの瞬間が未来を生きる糧になるよう子どもと一緒に再発見していきたい。
- ◆ 今回、間違い探しやミラーゲームを実際に体験出来て楽しかったです。さっそく学童の子どもたちと遊びたいと思いました。さらに、今回あらためて子どもたちの現状を知り、学童での時間の大切さを理解しました。学童が子どもたちにとって最後の砦と思い、これからさらに子どもたちに何が出来るかを考えながら寄り添っていきたくて思いました。